

# 月刊セキュリティ研究

**立党精神に立ち返って日本再生の道を考える**

衆議院議員 **稲田朋美**

危機管理体制

**福岡県**

福岡発、溢れるアイデアと実行力の新システム

**宮城県**

最新技術で再構築した新しい「MIDORI」稼動

特集

**海外での知的財産権侵害  
「模倣品・海賊版」の状況について**

日本貿易振興機構

(社) コンピュータソフトウェア著作権協会

2006

10

Security  
Specialist  
Association

**注目の企業紹介** レッツスポーツ株式会社

Info

特定非営利活動法人 **NBCR対策推進機構**

特定非営利活動法人 **日本情報安全管理協会**

特定非営利活動法人 **日本防犯学校**

連載

**ニーモニックNEWS  
情報セキュリティの話  
ザ・ボディーガード  
防犯・防災グッズ**

巻末  
特集

**セキュリティ業界有力企業一覧**

# 情報セキュリティ人材養成の現場から

常務理事 三浦 繁二

## 通信傍受対策市場と 通信傍受対策技士受験者の傾向

「市民生活の安心と安全」「企業活動の安心と安全」に少しでも貢献したいと歩みだした当協会通信傍受対策部門での最初の問題点は「信頼」の回復だった。ひょっとしたらという不安を「どこに相談したらよいのか」、「料金は適正なのか」、「技術レベルはどれほどなのか」といった、本来の不安とは別のところで発生する不安がこの盗聴・盗撮対策の世界の信頼を引き下げている。この不安を取り除く手段として、当協会は2004年3月に資格制度を提案し、知識・技能・コンプライアンスの三方向からプロの養成に着手した。

受験者は当初、経験者や通信電波に関連する方々の受講者が大半を占めていたが、最近では大手企業のセキュリティ部門担当者が増加し、受講者の層も大きく様変わりしてきた。個人情報保護法や公益通報者保護法、営業秘密の窃盗罪等、法律が整備され始め、企業が情報漏洩問題を意識し、企業内にセキュリティ部門を設け、資格者を内勤させようというのである。盗聴・盗撮対策の手法や考え方、費用対効果の考え方等、認識が甘く、まだまだ大きな温度差があると言わざるを得ないが、企業活動において、セキュリティへの対応はもう後回しにはできないものとなり、今後、飛躍的なニーズの拡大が予想される。

当協会では、通信傍受対策技士の育成教育、資格者の知識・技能・コンプライアンスの質の高い均一化と継続化を図り、適時試験前研修、資格試験、2年毎の資格更新講習、更に適時スキルアップ研修等の教育プログラムを行っている。

教育の現場及び探査現場での指導で最も気を配り、かつ徹底しているのは、通信傍受対策技士に対するコンプライアンス教育である。「信頼」の回復は上記問題点の解決はもちろんのこと、この業界そのもののコンプライアンスにある。通信の仕事に関わる者の第一のポイントであり、法人全体のコンプライアンスを更に掘り下げ、セルフコンプライアンスの徹底こそが信頼

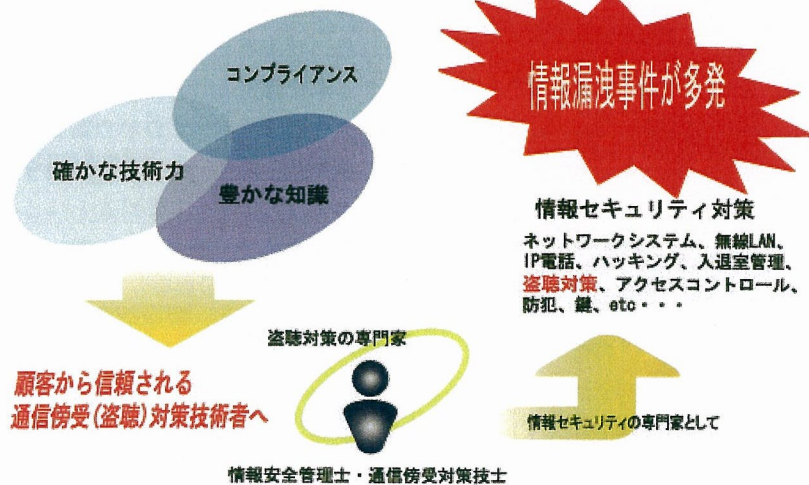
のキーワードと認識している。

## 通信傍受対策技士の技術向上の必要性

ある程度経験もあり技術に自信を持っている方の中には、今までの経験から積み上げた知識・技術で通用してきているという自負と、更に上の資格を目指すにも新しい機材の購入が必要になる等の諸問題から、現時点でのレベルで立ち止まる方も少なくない。銃声の聞こえない戦争と言われる情報傍受合戦の真っ只中、当然盗聴器・盗撮機器を仕掛ける側も我々以上に手法・機材の研究開発に努力していることは容易に想像できる。事実、秋葉原で売られている機器も年々小さく、高性能になってきている。また、デジタル盗聴器やスクランブル盗聴器等も出回り始めているのである。

このような中、どんなに革命的な機材が開発されても、それを使いこなすまでにはある程度の時間がかかるものでもあり、またセキュリティ観や認識の変化と定着にも一定の時間が必要になる。当協会としては、通信傍受対策技士の人員の拡大、質の向上が追いつかなくなるという危機感を持ちながらの毎日である。

現在の私たちの科学的知識や技術に限界があるとしても、日々の研究活動を怠らず、決して諦めずにできる限りの技術のソリューションを積み上げる。そして、全国の通信傍受対策技士の仲間と密なる情報交換をし、一步でも「安心と安全」に近づくべく努力が必要だと実感している。



### 第13回 通信傍受対策技士二種 資格認定試験のご案内

#### 1. 開催予定

資格種別	回次	開催日	開催地(受験会場)	定員	受験申請受付期間
二種	第14回	11/12(日)	東京会場 フォーラムミカサ	50名	受付中～10/31(火)

通信傍受対策技士とは、探査を実施するための技術、知識、コンプライアンスを有し、その水準が認められた方を言います。

#### 2. 情報安全管理士・通信傍受対策技士の業務

- 盗聴器・盗撮機器の探索・発見業務
- TSCM (テクニカル・サーベイランス・カウンター・メジャー：電子的監視対抗措置)
- 盗聴・盗撮対策のセキュリティコンサルティング
- 建物内の情報漏洩ルートの分析・レポート
- 新盗聴技術に関する対策技術研究・開発

#### 3. 資格取得のメリット

- これまで、ガイドラインのなかった通信傍受対策技術を一元化された基準において、資格認定を受けることによって、顧客からの信用をより一層深めます。
- 経験者もこれまで自己流だった技術・知識を客観的に試すことができるチャンスです。

#### 4. こんな方に適しています

- 盗聴器の探査・発見業務に従事している方
- 盗聴対策技術に興味のある方
- 一般住居の防犯関連の仕事がされている方
- 企業内情報セキュリティのご担当者
- 盗聴器に対して自分自身で防衛したい方

#### 5. お申込について

募集期間の間、当協会のホームページ上にて「受験申込書」をダウンロードして必要事項を記入の上、FAXまたは郵送にてお申込み下さい。受験申込書を受付次第、受験票等の関係書類を送付させていただきますので、受験申請手続きを行ってください。詳しくは協会事務局までお問合せ下さい。

■ <http://www.jilcom.or.jp>

■ TEL：03-5765-7677 FAX：03-5765-3181

■ 郵送：日本情報安全管理協会事務局  
〒108-0073 東京都港区三田2-14-5 7F

ただし、申し込み多数の場合は、会場等の都合により先着順とさせていただきます。定員に達し受験できない方には別途お知らせいたします。

#### 6. 受験手続について

当協会より、受験申請書等の申請書類を送付しますので必要事項を記入の上、事務局までご提出いただけます。受験申請書に記入される場合は以下の2点が必要となります。

- ①顔写真 2枚 (申請3ヶ月以内に撮影のもの。正面・上半身脱帽。サイズ縦3cm×横2.5cm以上)
- ②受験料の払込書の写し(コピー)

当協会では、受験料のお振込顔写真確認の上、受験票とテキストを受験者の皆様にお送りいたします。

テキストは、試験勉強にお役立てください。受験票は試験当日必ずご持参下さい。

#### 7. 試験当日のタイムテーブル

(※時間割は会場の都合などにより、一部変更することもございます。)



使用テキスト

第14回 二種 2006年11月12日

10:00	会場受付開始
10:15～10:30	協会挨拶・連絡事項
10:30～12:00	筆記試験(90分)
12:00～13:00	休憩
13:00～17:00	技能試験(実技)・面接試験

情報安全管理士  
認定試験に  
ついての  
お問い合わせは

特定非営利活動法人：日本情報安全管理協会 事務局  
〒108-0073 東京都港区三田2-14-5  
TEL：03-5765-7677 FAX：03-5765-3181  
URL：http://www.jilcom.or.jp

担当：守屋